

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No.

区分 感染経路別予防策

【質問】

吸引時やおむつ交換時に、全ての患者にエプロンの装着は必要でしょうか？

【回答】

感染対策としてのエプロン・ガウンの使用目的には、①感染性物質から医療従事者を守る事、②医療従事者の皮膚や白衣に付着した感染性物質が他の患者や環境へ伝播することの防止などがあります。いくつかの文献から、医療現場におけるエプロン・ガウン適正使用の考え方・方法について紹介します。

1. 医療現場における隔離予防策のためのCDCガイドライン

血液、体液、分泌物、排泄物への接触が予想される場合、処置や患者ケアの間は皮膚を守るために、また衣類が汚染したりするのを避けるために、業務に適したガウンを装着する。

2. 医療機関における院内感染対策マニュアル作成のための手引き（案）

(070828 ver. 5.0)

処置や患者ケアの過程で皮膚や着衣の汚染が予測される場合は撥水性のガウンを装着する。

3. 患者安全推進ジャーナル別冊感染管理に関するツール集

①汚染が広範囲であり衣服全体や腕を覆う必要がある場合はガウンを、汚染が体幹

部に限定できる場合にはエプロンを装着する。

②ガウン・エプロンは撥水または防水素材のものを装着する。

ご相談についてですが、吸引時やおむつ交換は感染性物質に曝露しやすい処置であることから、エプロンを正しい方法・タイミングで着脱することが感染対策上有効です。吸引時には、吸引そのものの行為や患者の咳き込みなどにより、痰・唾液などの体液の飛散により汚染します。また、おむつ交換時は、糞便や尿による白衣の汚染が予想されますが、下痢症状がある場合はその危険性が増加します。

したがって、院内での感染拡大を防ぐためには、特に次の2点を確実に徹底することが望まれます。

1. 呼吸器感染症症状のある患者の吸引時にエプロンを装着すること。(特にMRSAなどの耐性菌による汚染が予想される場合。)
2. 下痢症状のある患者のおむつ交換時のエプロンを装着すること。(クロストリジウムデフィシル感染症やノロウイルス感染症が予想される場合。)

一方で、感染性物質に曝露しにくい状況では、必ずしもエプロンの着用は必須では無いともいえます。例えば、容易に排尿用吸収パッドのみを交換できる場合など、おむつ交換時に医療従事者の体幹が患者やおむつに触れない場合では、手袋のみ正しく着脱することで対応可能であると思われます。しかしながら、現実の看護状況で職員の白衣を全く汚染せずに手袋のみでこういった手技ができるかどうかは大いに疑問が残ります。加えて、このように个人防护具を「下痢の時には着用する。排尿用吸収パッド交換時は着用しなくていい。」など単なる決まり事とすると、煩雑な業務のなかで、吸引やおむつ交換時に、必要な患者や処置状況に応じて適切にエプロンを使用することの徹底させることは、非常に難しいと考えられます。

そこで、吸引時やおむつ交換時にはエプロンを装着すると決めてしまう方が現実的です。実際に他の患者さんへの汚染の伝播が起こりやすく、また起こったときの結果が重大であると考えられる急性期医療機関では、そのような対応をしている医療機関が多いようです。一方で、在宅看護や慢性期など、周囲への伝播のリスクが低いと考えられる状況ではケアの種類でエプロン着脱を行うことも選択枝かもしれません。病院ごとにリスクを勘案しながら決定することが必要です。

いずれにしても、大切なことは、直接的に患者に医療やケアを提供する医療従事者が汚染した自らの手や白衣によって患者に感染性物質を媒介させる可能性に留意し、なぜ个人防护具を使用するのかを十分に「理解」して正しい方法・タイミングで使用するこトです。加えて、必要な時にすぐに装着でき、使用後は速やかに廃棄できる環境を整備することも、現場の医療従事者がエプロンなどの个人防护具を効果的に使用するために重要です。

エプロンがすぐに使用できるように処置用ワゴンに載せたり、病室前にラックを設置するなど、ハード面を整備されるとよいのではないのでしょうか。

【参考文献】

- 1、矢野邦夫、向野賢治訳・編：III感染性微生物の伝播防止のための予防策：医療現場における隔離予防策のためのCDCガイドライン．メディカ出版；2007.P119
- 2、医療機関における院内感染対策マニュアル作成のための手引き（案）
（070828 ver. 5.0） http://www.nih-janis.jp/material/material/Ver_5.0本文070904.pdf
- 3、浅利誠志ほか：標準予防策：患者安全推進ジャーナル別冊感染管理に関するツール集．認定病院患者安全推進協議会；2009.P8-P9